

「総合的な学習の時間」の学習形態の多様性

「総合的な学習の時間」講座より

学習形態として、一般的には一斉形態、グループ形態、個別形態がある。総合的な学習の時間では、一つの単元の中で実に多様な形態が組み込まれることが多い。また、学習組織にも考慮する必要がある。学年単位で取り組むことが多いだけでなく、学年の枠を越えることもある。また、小学生と中学生、小学生と高校生が校種を越えて、あるいは地域や国を越えて共同で活動する場合もある。

例えば、小学校5年生が3学級を解体し、環境問題について取り組んだとする。まず、学年全体で大自然に囲まれた森林で体験的な活動を行う。そして、学校に戻り、行ってみたい場所別のグループで校区探検を行う。探検を通して個々に問題を見付け、設定した課題ごとにグループまたは個別に追究する。課題によっては近隣の中学生や他国の子どもとの交流や共同調査を行う。成果のまとめ・発表の際には、表現方法や発信相手によってグループを構成する。このように学習組織・形態を固定せず、活動内容や目的に応じて柔軟に組み合わせることが大切である。

物事を多面的・関連的にとらえることの大切さを実感させるために、学習形態を組み合わせることも考えられる。例えば、学年全体、学級全体が共通の大テーマの下で活動したとすると、グループまたは個人で取り組んでいる具体的な課題やアプローチに違いが出てくる。あるグループがどうしても解決しえなかったことが、他のグループのアドバイスや成果によって解決できたり、逆に、あるグループが解決したと思っただことについて、他のグループの指摘により新たな問題が見えたりすることがある。

子どもたちが学ぶ楽しさを実感しながら「総合的な学習の時間」のねらいを達成するため、多様な学習形態を工夫したい。